

障害者支援施設 伏野つばさ園

1 基本方針

ノーマライゼーションの理念のもと、すべての利用者の人権と尊厳を守り、自立した生活を地域社会で営むことを基本とし、個別支援計画に基づき、利用者の希望に沿ったその人らしい生活ができるよう支援する。

また、健康管理等に十分配慮しつつ、生産（就労）活動を通じて社会の一員としての役割を担い「自信と誇りを持って暮らせる」よう、障がい者の地域生活を支える。

2 今年度重点事業目標

(1) 新施設移行後の円滑な運営

利用者が新施設での生活に少しでも早く溶け込み、日課がスムーズに進むよう職員間の連携を保ちながら支援を行う。

また、新施設での取り組みを情報発信し、関係機関と連携しながら、新規の利用者増を目指し安定的な運営を図る。

(2) 作業班等の再編検討

ア 法人内で連携し、利用者ニーズに応じた作業班の再編について具体的な検討を進め、更なる日中活動の充実を図る。

イ 自主生産部門（菓子・パン製造班等）の事業継続性を検討（販売場所・稼働形態・人員確保見込み、事業経営の長期的展望）し、通所事業の改変や新作業棟の創設等について具体的な検討を進める。

ウ 利用者の身体状況や障がい特性等に応じ、生活介護事業の安定した体制整備を図りつつ、より多くの方が取り組める日課の検討と就労継続支援B型事業の再編を進める。

エ さきゅう作業所の本体への移転を進めるとともに、はまなす作業所の安定した運営に努める。

(3) 工賃の目標

ア 自主生産作業・施設外就労の充実を図り、販路拡大、収支の適正化に努め、平均工賃15,000円以上を目指す。

イ 作業にかかる経費の削減に努め、新たな販売方法（注文販売）を検討し、インターネット注文による企業単位の生産販売システムの構築と、法人内販売を強化し安定した収入の確保を図る。

ウ 新たな工賃支給規程及び評価表に基づき、利用者への適正な工賃分配方法を定着させ、就労意欲の向上や適正なサービスの選択へと繋げる。

(4) 利用者支援の充実

ア 本人のニーズ、アセスメントに基づいた個別支援計画を作成し、PDCAサイクルにより、目標達成に向けて支援する。

イ 嘱託医、協力医療機関と連携し、各種検診を実施し成人病等の早期発見・治療につなげ利用者の健康維持に努める。

ウ 障がい特性に応じた支援方法を習得するため、各種専門研修への積極的な参加や、園内研修の充実を図り、職員の専門性を高める。

(5) 経営の効率化

ア 生産活動における原材料・諸経費の削減を意識し、経営の効率化を図りながらSNSやホームページを活用し、情報公開・PRに努め収入アップを図る。

イ 特別支援学校・医療機関・相談支援事業所と連携を図り、地域における在宅障がい者の見学・実習を積極的に受入れ新規通所利用者の確保に努め、もって稼働率アップを目指す。

目標稼働率〔就労継続支援B型：95%、生活介護：93%、施設入所支援：97%、短期入所20%〕

(6) 地域貢献・地域共生社会に向けた取組

ア 新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めつつ地域住民との交流を模索し、アート作品の貸し出し展示、イベント時の菓子・パンの販売など地域共生を踏まえた活動を積極的に行う。

イ 地域の清掃活動などへ参加し、美化活動等の社会貢献に寄与する。

ウ 当施設が持つ人材や設備等の資源を活用し、地域ニーズに応じた活動を行う。

(菓子・パン教室、自閉症・発達障がい等に関する地域相談 等)